

・スクラップ&ビルド

既成の、そして無自覚に培ってきた型を壊して、いまここで表現できる実感を得た、という感じです。学生たちが、音楽やあるポジションからのことばに、無意識に、長い長い年月をかけて合わせてきた歴史を壊していたと感じました。

少しまじめな子には、そして表現できこない子には、後遺症が残るかも？ と私のゼミ生を想像してしまいました。

・馬鹿になる というより インプロビゼーション

馬鹿になれと言われると、「いえいえ、馬鹿なんですけれど」と思うのが私です。深層の自己を深く見つめ、めくっていく方向よりかは、窮鼠猫をかむ的に、(きつい) 制約の下でこそ逆にアイデアが動く「かたち」になる、そんな瞬間が訪れるという鍛錬の連続でした。ただし、一人で背負い込むのではなく、各人の共鳴を基本としているので、その時が訪れやすかったと思います。

いやあ、どんどんレベルが高くなるインプロビゼーションでした。

・地方の若者に対しての例示

何かをタスクを課すとき、教師もそこそこのレベルの例を示してから、はいどうぞ、という教授法の流れがあります。その際、実感として思うのは、地方の若者は例示をマネしがちな傾向が強いということです。教える側が単調さを感じてしまう原因の一つかも知れません。無意識にインプットされる糧の多様さなどといったことを考えると、都会という環境の影響力を認めざるを得ないかな、ということもあります。ただ、彼らは彼らのいっばいっばいを示しているのも確かで、さてこちら側はどう作戦を立てたら、誰でも・アブソリュートなビギナーでも階段を上れるか、その発想を試されるよな、とつぶやいてしまいます。

そこでー (ある音楽療法の見聞き学問から) 音符万載ではない、抽象絵画かいな？ みたいな楽譜が目の前にあると、オーケストレーションしやすいかも？

*ご多忙にもかかわらず、お世話役ありがとうございました。

*最後のエチュードで、事務の方が足を組んで座って見ていたので、こりゃあ場が冷えるなと思ひ、あとでご本人に少し小言を言っておきました。余計なコトしてすみません。